浦潮今後の形勢は重大

セ軍の新要塞司令官任命　革命軍との衝突如何

（浦潮本社特派員發電）

チタ市に在るセミヨノフは今回カルムイコフ將軍を浦潮要塞司令官に任命せりと、カルムイコフ軍が浦潮に入り込み革命軍と交戰し得るや疑問なるが今後一週間の形勢は重大にして如何の變事發生するやも測知し難し

革命軍と新聞紙　續々發刊しつゝあり

メドウエデフ氏の政綱中言論の自由は最も尊重する所にして其の機關紙の如き新聞記者も多く、休刊され居たるオボズレーニエは再び發行し共産黨ウオリヤ、クラスノエ等の赤色新聞も續々發行されつゝあり

革命軍に降れ　然らざれば日本に行け

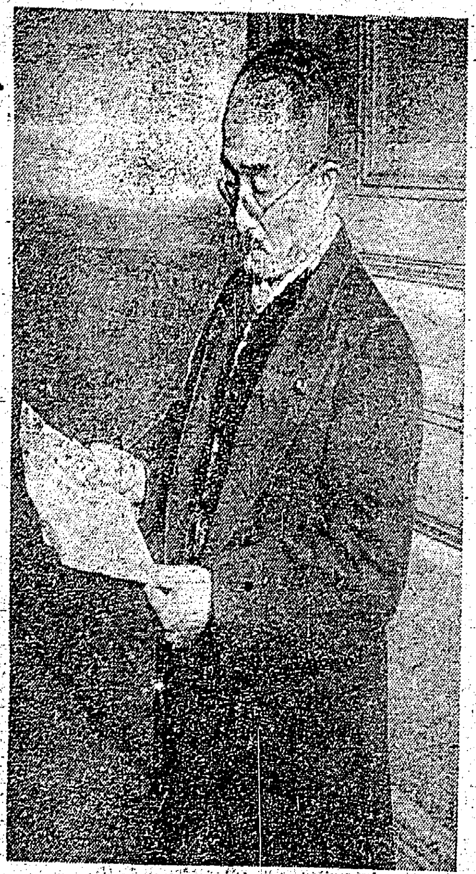
一日ニコリスクに於て同地守備軍將校會議開催されたるが何れも浦潮の政變を歡迎し強固なる軍隊の編成を約し尚ほ日本軍司令部に避難したる露國將校に對し若し彼れ等にして革命本部に降らざれば彼れ等を祖國の敵と見做すべき旨を宣言し日本に對し若し彼れ等避難將校が日本に必要ならば速かに彼れ等を日本に送られたしと要求せり

大井將軍無言の會見

ロザノフを引渡の要求　巧みに二十億の財産拿捕を免れた同總督

（浦潮本社特派員發電）

ロザノフ總督は依然我が軍司令部に收容されつゝあり總督及び家族並に部下の將校數名は近く日本の御用船にて敦賀に送らるべく



本社の號外を讀み驚いてゐる白仁製鐵所長官（五日[illegible]會にて）

し、ロザノフ總督の所有金塊其他の財産廿億留は政變に先だち既に汽船アラレヤ號に積込み一日夜陰に乘じ浦潮港を脱出せんとせるを革命黨に發見され拿捕されんとしたるより、今はこれ迄と汽船は自ら淺瀬に乘上げたり然るに革命黨は淺瀬に乘上げたる上は最早我物なりと安心し警戒の手を緩めし際に同船は滿潮を利し淺瀬を離れ夜半何れにか遁走せり革命黨は空しくロザノフの財産を逸したる爲め齒噛みをなして口惜しがりつゝあり、尚ほ我が軍司令部に收容中のロザノフ系統のものは百五十名にして他に我が交通部に收容せらるゝもの八十名あり、何れも着のみ着の儘にて其の境遇悲慘なり、革命側はロザノフ將軍以下六十名の引渡方を政務長官平民氏に要求し三日更に大井司令官に會見を求めたるが同司令官は約一時間半に亙り無言の會見をなしたる爲め流石のメドウエデフ氏も辟易して退出せり、避難民は浦潮市の秩序平靜に歸するまでは我が軍に於て保護さるべし

又避難民を乘せて　鳳山丸敦賀に歸る

浦潮税關も革命黨員が執務

鳳山丸は六日午前六時敦賀に着したるが乘客は八十名の露國避難民其他邦人等三十名を乘せ來れり船長の談に依れば浦潮の各機關は總て革命黨の手に歸し税關等も革命黨員が事務を執りそれ以前の税關勘定は凡て無効とせり

ペンザ號は　七日浦潮へ

ペンザ號は敦賀に滯在し居たる佛國戰線より歸還の波蘭國兵七十名を搭載し七日正午出帆浦潮に向ふ筈なり（敦賀電話）

浦潮市民は寧ろ革命軍を歡迎してる　併し赤色旗にはもう飽いてゐる

六日敦賀に入港したる鳳山丸船客英人ジヨンストン氏は語る「浦潮市民は今回の社會革命黨に對しては寧ろ歡迎して居る傾向がある、夫れは三十一日の革命勃發以降留の價格が俄然八十に下つたのに見ても判る、革命以前迄は百三四十を上下して居た、隊長メドヴエデフ氏は極めて穩健な人で其の帷幄に參與する領袖も何れも教育ある智識階級の人々である、三十一日の當日の如き一萬五千の社會革命黨が市中を行列する時の光景などは極めて態度堂々として軍規又峻肅なもので市民から大喝采に迎へられた、併し市民は赤色旗には最早飽いて居る、只實力ある主權者としてのメドウエデフを歡迎……が英國は一般……本の撤兵は……メドウエデフ氏……式に要求し一日……

陸戰……

八幡製鐵所の罷工職工　嚴戒中に徐々……

暴行に恐れて就……　架空線も構……　熔鑛爐……

八幡製鐵所の同盟罷業は勞友會の幹部が殆ど悉く拘引されたる爲氣勢を殺がれ其の上勞友會と他の團體との間に連友會と立場を異にせりといふ同志會との諒解なき爲又五日の罷業に對しても強硬論者の暴行脅迫を恐れずも雷同したる者勘からざりしより六日午前六時半に出勤する者殆んど平常と異らず製鐵所にては其の途中強硬論者の爲め萬一暴行脅迫さるゝ者無きを保し難しとなし市中の要所要所に警官憲兵等を配置し嚴重なる警戒を施したり、出勤したる職工等は各所屬工場に入りたるも形勢を傍觀して作業せず製鐵所當局は各係員をして作業を督勵しつゝあるも大部分は就業することを躊躇し唯工場内に三四人宛團を成して平然たる有樣なるより工場附近に警官憲兵等多數を配置し嚴重に警護し徐々就業せしめつゝあるも……要機關の運轉を中止……七十有餘の各工場何……の状態を脱せず前日……煤煙も僅に數……ぎず構内の空中に……れたる數百條のケー……三の外運轉を開始せ……も正午に至るも運轉……は五基の中三基まで……たりと當局は稱し居……爐を見るに迄には猶數……

長官よりの電報　『朝日の號外は事實』

中川次長以下製鐵所の幹部職員は六日早朝より事務所樓上の長官室に集合適宜の處置に就き議を凝らせり中川次長は記者の訪問に對し「事の顛末は既に五官に打電しましたが、……は唯「東京朝日」は事實なり……の電報が來たばかり……

株式後場手口

……は至極薄商内にして彼れが如き……的商状を示したるが大新のみは……田買ひのため引際高を示せり▲即……

▲株式引跡氣配

後場引跡は薄取引にて氣配變らず午後四時半頃の現物は大株四百三十八圓新四百三十三圓上取三十六圓五十……

生絲引跡氣配

午後の現物市場は三品後場一節の先物安に中品二十手七、八、九月物六百三十三圓買ひの唱へあり買人少かり……

▲飛躍と手口

六日の三品市場は夕刊所報の如く先物六百圓の大關門突破を演じたる……商内も大にハズみ▲前場は山田……

▲支那無……

……んに出廻れる……引際の引して地場筋の賣……

貨物列車……　海中……

五日午前八……株式會社……津……組み貨車十……海岸の高……

大阪……

大阪瓦斯株式會社は瓦斯料金値上げ承認の……五錢の現行料金を目下……のみに會社に……渉開始を見るべ……とし勞銀の……

……鎮守府にては急電により約三百名の海兵……より日中に……明日となり已に……と出すべ……より八十……列車にて出發……